

教科	家庭科	科目	子どもの発達と保育	学年	第3学年	講座	
単位数	4 単位	教科書	子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う (教育図書)				
副教材	子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う ワークノート (教育図書)						

学習目標	発達の特徴や発達過程を踏まえた子どもの発達について理解させるとともに、保育に関する知識と技術を習得させ、地域の子育て支援に寄与できるようにする。 保育実習や体験的な学習を通じて、将来の育児に役立てることができるようにする。
------	--

		学習計画及び内容		考査
1 学 期	4月	子どもの発達の特徴 子どもの発達過程	ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。	第1回考査
	5月		子どもはさまざまな環境の影響を受けながら発達していくことを知る。	
	6月		身体発達と運動機能の発達には一定の順序と方向性があることを知る。一方で個人差が大きいことも理解する。	第2回考査
	7月		愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。安全基地としての親の重要性について理解する。	
2 学 期	8月	子どもの生活	基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解する。沐浴実習を行う。	第3回考査
	9月		幼児食実習や幼児用のおやつ作りなど実習を通じて子どもをイメージする。	
	10月		適切な寝具やおむつの使い方などを理解する。	第4回考査
	11月		子どもにとって遊びは、豊かな心や多くの能力を獲得するために大切であることを知る。	
12月	子どもの病気の特徴や住まいに潜む危険について理解する。			
3 学 期	1月	子どもの保育 子どもの福祉と子育て支援	人間形成の基礎を培う乳幼児期の大切さと保育の意義について考える。	第5回考査 (3年1月) (1、2年3月)
	2月		子どもの成長には、子どもを受け止めて理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。	
	3月		子どもが育つ環境には、どのような問題があるのかを知る。 福祉の理念について理解する。	

学習の方法	授業の前に予習として教科書を読みます。そして、授業中には、説明をよく聞きノートの指定の場所に板書事項を記入していきます。また、重要な語句には、線を引きます。授業後は、宿題をし、定期考査終了時にノートの提出ができるようにプリントの整理をします。 学習した内容で家庭生活で役立つことは、実践していきましょう。 家庭学習時間の目安は、予習15分、復習15分 合計30分とします。
-------	--

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を見つけているかどうかを評価する。	各分野の知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身に付けているかどうかを評価する。	各分野において習得すべき技術を身に付けているかどうかを評価する。	各分野において習得すべき知識や重要な概念を身に付けているかどうかを評価する。

備考	中島こども園で、年間6回の保育実習を実施する。
----	-------------------------

